

大磯駅前広場に関する説明会

■日 時：令和元年9月23日（月・祝） 14：00～16：00

■場 所：大磯小学校

■出席者：町民 196名

大磯町 町長、都市建設課長、都市計画課長、都市計画課主査

■挨拶（町長）

大磯駅周辺の安全安心とにぎわいというものは、大磯町の長い歴史の中で重要なポイントである。皆さんにお集まりいただき、皆で考えていかなければならない。町は、大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画を作成したが、町民に十分な周知がなされていないとのご指摘をいただき、反省に基づき、休日ではあるが、説明会を開催させていただいた。

大磯駅前広場は老若男女が利用し、自転車も多く通る場所である。様々な意見があるとは思いますが、町の考えなどについて説明しあげるため、忌憚の無い意見をいただきたいと考える。

皆さんの意見を踏まえて、計画に反映していきたい。

■説明（町都市計画課）※国府小学校で開催した説明会の議事録と同一の内容

（資料P2）

本日は、駅周辺整備の検討の経緯を説明した後、一点目に駅と駅前広場の現況、二点目にアンケート調査の結果、三点目に駅前広場の課題など、四点目に現在の整備計画図（案）について、五点目に今後の取組み、といった順でご説明する。

0. 駅周辺整備の検討経緯

（資料P4）

駅及び駅前周辺については、平成13年に、学識経験者、駅周辺自治会、住民団体、商工会、観光協会などで組織する「大磯駅前まちづくり検討会」で、大磯町にふさわしい駅前周辺について議論いただいた。その結果は、平成13年12月に「大磯町にふさわしい駅前周辺の整備構想」（提言書）として纏められている。提言書では、大磯町にふさわしい駅前周辺の整備として、自然・文化・歴史、さらには人と緑が調和する景観が保全された、「質」の高い、活気に満ちた街区として整備すべきといった趣旨の整理がなされている。また、安全性・バリアフリーにも配慮すべきといった提言もなされている。

また、平成20年3月には、大磯町議会により、町民の安全安心の確保を優先し、町の玄関にふさわしい駅周辺の整備に、町が真剣に取り組むことを求める「決議」がなされた。

平成20年6月には、区長連絡協議会・漁業協同組合より、町の玄関としてふさわしい、安全安心を感じる道路・歩道整備の取組みを求める要望書が、約6000名の署名と共に提出されている。

町では、こうした決議や要望などを受けて、バリアフリー基本構想、第四次総合計画基本計画及びまちづくり基本計画に、駅前周辺地区の再整備を位置付けている。

（資料P5）

町では、平成29年度には、『大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画（案）』の策定を目的とした検討を行った。検討にあたっては、『（仮称）大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画（案）策定委員会』を設置した。この委員会は、町が事務局となって、学識経験者、周辺町内会、観光協会、商工会、住民団

体、行政関係機関などで構成する組織で、町が策定する計画の案に対して、専門的見地から助言・指導を行うことを目的としている。また、より専門的な事項について、助言・指導をいただくために、3つの専門部会が設けられた。

これらの委員会と部会での議論にあたっては、町民及び駅利用者の意見を把握するため、アンケート調査を実施している。

こうした体制の中で、町は、平成30年3月に「大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画（案）」を作成した。

本日は、この計画（案）の内容を中心に、駅前広場における現状と課題及び対応の方向性についてご説明する。

1. 駅・駅前広場の現状

（資料P7）

資料P7のグラフは、大磯駅の利用者数と大磯町の観光客数の推移を表している。

青い棒グラフは過去10年間の大磯駅の日平均乗車人員の推移を表している。赤い折れ線グラフは1年間に大磯町を訪れた観光客の推移である。1日平均乗車人員は徐々に増加している。観光客数については、年度ごとにバラつきはあるものの、増加傾向である。

現在、町内では大磯港の賑わい交流施設や明治記念大磯邸園の整備を進めているため、今後、更なる観光客の増加が見込まれる。それに伴い駅や駅前広場の利用者数の増加が想定される。

（資料P8）

駅前広場の交通量について、徒歩で出入りする方は延べ約12,000人／日、自転車は約2,300人／日、自動車・バイクは、雨の日は約8,400台／日、晴れた日は約7,900台／日である。1日で、最も交通量が多い時間帯は、朝の通勤・通学の時間帯、7時から8時であった。

（資料P9）

一般車の滞留台数について、送迎や買い物を目的に駅前広場に滞留している台数は、雨と晴れで大きく異なり、雨の日は2,300台、晴れた日は約700台で、その8割から9割が送迎を目的としたものである。滞留台数が多い時間帯は、先ほどの交通量と同様、朝の通勤・通学の時間帯である。

（資料P10）

駅前広場の事故の発生状況について、人身事故は、平成24年に1件、25年に1件、26年に2件、28年に1件発生している。物損事故については、多くの物損事故の中から、県警に手作業で調べていただいたため、過去2年分のみとなるが、平成29年に6件、平成30年に13件発生している。

これらの数字は、あくまでも県警で把握している数字で、届出などがなされていないものなどを含めると、より多くの事故が発生していると思われる。

2. アンケート調査の結果

（資料P12）

町では、計画（案）の作成にあたり、無作為に抽出した町民と駅前広場利用者に対して、アンケート調査を実施した。

駅前広場利用者を対象としたアンケートは、駅前広場にて調査票を手渡しで、500通配布し46%の回答をいただいた。町民を対象としたアンケートは、住民基本台帳より無作為抽出した15歳以上の町民に、調査票999通を郵送し、40%の回答をいただいた。

その結果について、代表的なものをご説明する。

(資料P13)

駅前広場までの交通手段については、『徒歩』の方が全体の44%と約半数を占めている。続いて、バス、自転車、自家用送迎及び自家用運転の方がそれぞれ約10%といった結果になった。

(資料P14)

駅前広場の安全性に対する意識について、現状の駅前広場が安全・どちらかという安全と感じる方は全体の31%、安全では無い・どちらかという安全ではないと感じる方は全体の45%となった。安全では無いと感じている方がやや多いといった結果である。

(資料P15)

駅前広場の利便性について、現状の駅前広場が便利・どちらかという便利と感じる方は全体の20%で、安全では無い・どちらかという安全ではないと感じる方は全体の48%となった。便利では無いと感じている方が多いといった結果である。

(資料P16)

アンケート調査では、選択式のアンケート以外にも、自由意見を記載していただいた。資料P16にお示しする内容は、比較的多かった意見をまとめたものである。

安全・安心に関する内容としては、歩行者の安全性の向上を求めるとご意見、自転車との事故を懸念するご意見が多くあった。

景観に関する内容としては、緑地を残してほしいといったご意見、大磯らしいイメージ・景観は保ってほしいといったご意見が多くあった。

利便性に関する内容としては、一般車の駐停車スペースの設置を求めるとご意見が多くあった。また、利便性より、大磯らしい景観やイメージを求めるとご意見がある一方で、日常的な買い物ができる商業施設や、喫茶店といった休憩ができる飲食店といった利便性を求めるとご意見を頂いている。他にも、待ち合わせ・休憩できる場所を求めるとご意見もあった。

この中で、特に多かった意見は、景観に関するものである。大磯らしいイメージを大切に、どちらかと言えば、利便性よりも景観を重視といった考えの方が多いいった傾向である。

3. 駅前広場の課題等

(資料P18)

アンケート調査や現地での調査の結果を踏まえて抽出した、現状の駅前広場の課題について、ご説明する。安全安心に関する課題として7項目、景観に関する課題として2項目、にぎわいや利便性に関する課題として2項目、その他の課題を3項目抽出している。

(資料P19)

課題の1点目は、駅舎前の安全に関するものである。

駅舎の前では、タクシーが1列、多い時には2列、待機している。このようにタクシーが待機していると、西から東に向かう車の運転手から、横断歩行者の確認が困難となる『死角』が生ずる。横断歩道の全体が見渡せるのは、横断歩道の直前となる。

また、タクシーが2列に並ぶと、タクシープールの幅一杯に、時には、はみ出して駐車することになるため、一般車に圧迫感を与え、接触の心配もある。

横断歩行者の視点では、横断歩道の延長が、特に高齢者や体が不自由な方などが安全に横断するには、長いことが挙げられる。また、自動車を運転する方にとっても、横断歩道が長いことで、注意を払うべき範囲が広がり、見落としが生じる可能性が高まる。更に言えば、横断歩行者がいる間は、車両はそれを妨げてはならないが、歩行者が渡る時間が長くなれば、車両が停車する時間も長くなる。

(資料P20)

資料P20は、駅舎前の現況写真である。横断歩道は約15mと、一般的な車道の4車線分の延長がある。駅前広場には、横断歩道をまたぐように、タクシーが2列にわたって停車している。駅前広場南側には学校が隣接しているため、通学時間帯には横断歩道を多くの児童や子供連れの方が渡る光景を目にする。

(資料P21)

課題2は、駅舎前の横断歩道の近くで、Uターンする車両が多く見られることである。多い時間帯では、1時間に30台のUターンが確認されている。Uターン自体は禁止されている行為では無いが、自動車や自転車などが輻輳し、さらには駐停車車両や横断歩行者がいる駅舎の前でUターンする際には、周囲に相当な注意を払う必要がある。見落としがあった場合には、事故に繋がる。

(資料P22)

課題3は、駅前広場の西側ロータリーの課題である。

西側ロータリーは、バスの回転には余裕が無い。特に、バスの本数が多い時間帯など、コンビニエンスストアの前にバスが待機し、その脇をもう一台バスが通行する場合には、ギリギリでの通行となる。また、交通島沿いの駐停車車両がバスの運行の妨げになっている状況も見られる。

(資料P23)

課題4も駅前広場西側ロータリーの課題である。

交通島の南側には、バス停が設置されているが、バスが停車している際の通行可能な幅は約5.2mに狭まる。この幅員であれば、一般車同士の行き違いは可能であるが、東側に緩やかなカーブがあり、直前までお互いを認識できず、接触事故の可能性が高まる。また、東側には、交通島の北側を回る車両との合流地点がある。注意を払わなければならない範囲・箇所が多く、衝突事故が発生する危険性が高い場所の一つと言える。

(資料P24)

課題5は、歩道及び横断歩道に関するもので、東西に課題が存在する。

まず、駅前広場の西側ロータリー付近について、西側の飲食店の前には歩道が無く、その南北には横

断歩道が無い。この区間には1日に約700人の歩行者が通行しているが、混雑時には駐停車車両も見られ、その車道側を歩行者が通行している光景が見られる。

(資料P25)

課題5の駅前広場の東側の課題としては、飲食店、交番、観光案内所の前に歩道が無いことが挙げられる。この区間には、一日に約1800人が通行している。また、観光案内所の前の横断歩道は、前後の滞留空間が無い、または不足している。この横断歩道には、1日に約800人の通行があり、通学路としても利用されている。

(資料P26)

課題6は自転車の通行に関する課題である。自転車については、斜め横断や逆走が見られる。特に、駅舎前を西から東に向かう自転車の逆走が1日に約500台と多く、コンビニエンスストア前でも約250台の逆走が確認されている。

(資料P27)

課題7は、西側ロータリーの交通島に関する課題である。

交通島には、モニュメントの他、高木・中低木など、様々な植栽が植えられている。これらが、運転手の目線の先・高さにあるため、安全確認のための視界を遮っている。特に、交通島の西側と東側では、進行方向の確認や左右確認に支障が出ている状況にある。資料P27の下側の写真では、植生の向こう側の一般車が確認しづらい状況がお分かりいただけると思う。

(資料P28)

課題8は、駅前広場の景観をより良くする視点での提案で、駅前広場に面した建築物について、外観や看板に統一感を持たせることで、歴史的な資源である駅舎や駅前洋館と一体感のある、景観に優れた駅前広場になるといったものである。

課題9は、広場南側の電柱や電線が駅前広場の景観を損ねているといったことを挙げている。

(資料P29)

課題10は、駅前広場全体を見渡すと、待ち合わせや休憩スペースなどの滞留空間が不足していることを挙げている。特に、駅舎前で団体が待ち合わせをしていると、駅を利用する方の通行を妨げている状況にある。

(資料P30)

課題11は、駅前広場西側の観光案内所が狭いことを挙げている。今後、観光客の増加が見込まれているが、駅前広場に滞留空間が無く、観光案内所も狭いため、観光客が狭い歩道に溢れ、大変混雑するといった状況がみられる。こうした中で、観光協会裏側には、駐輪場の跡地があるため、課題を踏まえながら、この跡地の活用を検討する必要があると考えている。

(資料P31)

最後に、その他の課題として、駅前広場の望ましい整備基準と照らしたうえで課題となるもの、また、

今後、駅前広場の管理上、課題と考えられるものを挙げた。

一点目としては、身障者用の乗降場所が無いこと、二点目としては、一般車の乗降場所が明示されていないこと、三点目としては、駅前広場内の土地は、ほとんどが民間企業の所有だが、部分的に町道の区域がかかるなど、駅前広場管理が複雑になっていることが挙げている。

以上が、アンケート調査結果や計画（案）策定委員会での議論を踏まえて抽出した、駅前広場の課題である。

4. 現在の整備計画図（案）

（資料P33）

町では、こうした課題に対して、駅前広場をどのように整備・改修し、解消・改善すればよいかを、計画（案）策定委員会の助言・指導をいただきながら検討した。

資料P33の図は検討の結果を整理し、整備計画図（案）として図示したものである。検討範囲は、図に赤枠で示した範囲で、現状の駅前広場と同じ範囲である。

駅前広場の区域を拓げるためには、隣接する用地の取得が必要となるが、平成29年度の検討時点では、民有地の権利者から、検討範囲に含めることの了解を頂いていなかったため、現状の駅前広場の範囲内のみで、出来る限りの整備を検討した。

この後ご説明するが、今後、本日のご意見などを踏まえて、整備計画図を修正するため、変更することを踏まえて、この後の説明をお聞きいただきたい。

なお、整備計画図（案）は、現況図と並べて、資料としてお手元にお配りしている。

（資料P34）

現況と整備計画図（案）の違いを比較しながら、ご説明する。

変更点としては大きく8つあり、順にご説明する。

（資料P35）

まず、変更点1は、駅舎前の滞留空間の確保と横断歩道の短縮である。

資料P35の図において、グレーで着色した範囲は現況歩道の範囲を表している。

整備計画図（案）では、黄色で着色する部分を、歩行者のスペースとして拡幅している。駅舎前の歩道は、現状の4.2mを5.7mに広げ、さらに横断歩道に接する部分は8.5mに広げている。また、駅舎と反対側の歩道について、幅員は現状と同じ3.4mだが、横断歩道に接する部分は6.8mに広げている。

このように歩行空間・滞留空間を十分に確保することで、駅舎前の混雑軽減に繋がり、人の流れが円滑になるとともに、憩い・にぎわいの場が生み出される。

（資料P36）

また、駅前の横断歩道の延長は現状14.7mあるが、7mに短縮することで、自動車運転者が横断歩行者を見つけやすくなり、安全性が向上する。さらに、横断歩道・横断時間の短縮によって、自動車の流れがスムーズになることが期待できる。お年寄りやお子さん、子供連れのご家族は、ゆっくりと渡っても、自動車への影響が少なくなるため、現状よりも、安全に、気兼ねなく横断することができる。

(資料P37)

変更点2は、タクシー乗り場とプールの位置の見直しである。現況のタクシープールは駅舎前にあるが、駅舎前の歩道を拡幅するため、移動が必要となる。タクシーは公共交通機関であって、基準上、一定台数以上のタクシープールが必要となるため、交通島を狭めて西側に移動しています。

変更点3は、身障者・一般車乗降場所の適切な配置である。現況では、一般車から安全に乗降できる場所が設けられていない。そのため、身障者を含む一般車の乗降場所を、駅舎前と駅舎の向い側に設けている。このうち、駅舎に最も近い位置には、体の不自由な方の優先場所を設ける。

なお、バスの停車場所については、変更はしていない。

(資料P38)

変更点4として、西側の飲食店の前に幅員2mの歩道を設けるとともに、また歩道前後に横断歩道を設けている。

変更点5として、交通島を現状の位置から縮小し、変更点2でご説明したタクシープールを移動している。交通島の縮小は、西側への歩道設置とバスの通行位置を考慮して必要な道路幅員を確保するためにも必要となる。また、交通島内の植栽については、運転者の視界を確保するため、その高さや位置について配慮が必要である。

変更点6として、交通島の南側の道路は一方通行としている。こうすることで、運転者が注意を払うべき箇所を減らし、事故の危険性を低減している。

これらの変更によって、歩行者の安全性が向上するとともに、自動車の円滑かつ安全な走行空間が確保される。

(資料P39)

変更点7として、自転車の走行位置を『矢羽根』により示している。

『矢羽根』とは、資料P39の写真の青いマークである。こうした表示をすることで、自転車が、本来守らなければいけない走行位置や方向を明確にしている。また、自動車の運転者に、『ここは自転車も通る場所である』と認識していただくことにもつながり、自転車利用者の安全性が高まる。

(資料P40)

変更点8として広場南側の商店前の無電柱化である。

電柱と電線が無くなることで、上空の視界が広がり景観が向上する。また、歩道から電柱が無くなるため、実質的な歩行空間が広がる。他にも、大規模地震などの災害時に、電柱が倒壊するといった心配が無くなり、避難路や輸送路が確保されるといった効果がある。東日本大震災の際には、電柱の倒壊が物資の輸送の妨げになるなどの問題となった。無電柱化のうち地中化は、こうした災害に強いと言われている。

以上が、町が平成29年度に検討し、作成した整備計画図(案)についての説明である。

(資料P41)

ここまでご説明した内容については、『大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画(案)』として取りまとめている。作成時点から1年半が経過し、状況が変化している部分もあるが、詳細を知りたい場合には、計画(案)をご覧ください。

計画(案)をご覧になる方法として、インターネットで閲覧される場合は、町HPのトップページで、『大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画(案)』と検索していただきたい。

印刷物をご覧になる場合は、町役場の本庁舎及び国府支所の町民情報コーナー、もしくは都市計画課窓口でご覧いただきたい。

5. 今後の取組み

(資料P43)

最後に、今後の取組みについてご説明する。

本日ご説明した整備計画図(案)は、現状の駅前広場の範囲を変更しないことを前提に、検討したものである。限られたスペースの中で課題に対応するには限界があり、現状の駅前広場の課題のうち、いくつかは解消できていない。

解消出来ていない主な課題としては、駅前広場東側の歩道が未整備であること、観光案内所前の横断歩道の滞留空間が不足していること、駅舎前のUターン対策が十分でないこと、一般車の停車スペースを求める声があることが挙げられる。

また、駅前広場のほとんどは民間企業の所有地で、一部、町道の区域もあり、駅前広場の権利者・管理者といったものが非常に複雑になっていることも課題としてある。これは、適切に維持管理を行っていく上で支障になるため、整理が必要である。

(資料P44)

こうした課題が残されている中で、今年度に入り、広場東側の民有地の権利者の方々から、まずは、駅前広場の区域に含めて検討しても良いとの承諾をいただいた。今後、広場東側の旧駐輪場跡地や観光案内所、交番、飲食店の敷地を、駅前広場の区域に含めることも検討しながら、現在の整備計画図(案)を基本として、修正を行っていく。

(資料P45)

今後の検討の流れとしては、本日の町民等説明会の後、整備計画図の修正に着手する。

整備計画図は、まず、本日の説明会での意見や、関係機関等と協議・調整等をしながら行政案を作成し、その後、改めて、町民の皆様に意見をお聞きしたうえで、最終的な整備計画図として取りまとめていく。その後、工事着手に必要な実施設計を行い、工事に着手していくこととなります。

駅前広場の検討については途中段階ではあるが、本日は、駅前広場の課題と、町が考えている対応案などについて御理解いただくため、説明会を開催させていただいた。また、この後、ご質問・ご意見をいただく時間を設け、今後の検討に、反映できればと考えている。

しかしながら、これまでも賛否様々なご意見を聞いており、本日いただく意見を全て反映することは不可能である。町としては、町民等の安全を確保する立場として、出来る限り受け止めたうえで、一日も早く、安全・安心を感じていただける駅前広場の実現を目指していきたい。

■質疑応答（○：町民等、●：大磯町）

- 現在の整備計画図（案）では、飲食店の前に歩道・横断歩道を設置する計画になっている。飲食店の駐車場に影響があるか検討をしているか。
- 駅前広場西側の歩道整備にあたっては、様々な方法があると考えている。整備計画図を作成した後の実施設計の中で詳細な計画図を作成する段階で、地権者と個別にお話しながら、歩道の構造については調整していく。

- 幅はあるとは思うが、予算はどの程度を考えているのか。それにより、他の予算に圧迫があるのか。どれだけの増税になるのか。私はこの計画に対して賛成では無い。
- バス停屋根の設置、無電柱化の実施など、整備計画図（案）の全てを整備したと仮定して、約4億4千万円と試算した。これはあくまでも概算で、今後計画を修正する中で、コスト削減も考えていきたい。この中には、広場全体の舗装の打ち直しなども含めている。町も財政的に厳しい状況にあるため、国の補助金を活用していく。約4億円といった金額が一人歩きしている状況にあるが、町としては、コストを考えて整備をしていきたいと考えている。

- 何年もかけて、有識者も入れてまとめてきたと思うが、一番心配されるのは、課題 11 として説明のあった駅前広場東側の飲食店、観光協会、旧駐輪場跡地の利用についてである。先ほど、地権者との話し合いが進んでいるとの説明があったが、その状況について聞きたい。また、旧駐輪場跡地を取り込み、どのような活用を考えているのか。私は、大磯に住んでから非常に長い。東側の飲食店は、子供のころにケーキを買った思い出もあり、非常に愛着がある。駅前広場の整備については、皆が納得するようなものにして欲しい。

また、スケジュールの最後に工事着手とあるが、概ねのタイムスケジュールとしてはどう考えているのか。検討していると言いつつ、やりたいことだけを続け、検討課題が忘れられては問題である。4億4千万円かかるとの話であった。送迎の問題などを全て満足させることは難しいと思うが、実施に整備するのであればきちとした形で、相対的に皆が満足して、素晴らしい大磯町となるよう、意見を聞きながら進めてもらいたい。
- 旧駐輪場跡地と交番、観光案内所及び飲食店については、今年度に入って民有地の所有者の承諾をいただき、これから駅前広場の区域に加えて改めて検討を行っていく。スケジュールとしては、まだこれからといった状況で、まずは全体の整備計画をまとめ、その後に詳細な設計をしていく。その後、仮に工事を実施することになった場合には、駅前広場を通行止めにはしないよう、工区を分割して実施することになるが、詳細な設計では工区の分割方法についても検討することになる。工事着手までには、検討・調整することが多くあり、現段階では駅前広場の完成時期などについては、お答えできる段階にないが、まずは、全体の整備計画をまとめ、お知らせできる段階で全体スケジュールを示していきたい。

- 駅前広場は狭すぎる。何かをすれば、どこかにしわ寄せが出てくる。町民として一番気にすることは、大磯町に東海道線の駅が一つしかなく、通勤や通学などのため、多くの方が駅・駅前広場を利用している中で、整備後に送迎車がどの程度止められるかである。送迎車の停車が制限されては、非常に困った事態となる。どんなに良い計画であっても、町民にしわ寄せが来るようでは困る。駅前広場が狭すぎるため、タクシーやバスなどは、歩道に屋根をかけるなどして、他所に移動しない限りうま

くはいかない。安全・安心といった大看板を立てられては、ほとんどの人が反対出来なくなるが、駅前広場が狭いため、タクシーやバスはどこか移動しなければならない。私は、雨の日に迎えに来てもらった際には、駅東側にあるふれあい会館まで行って乗車している。ふれあい会館の横に公園があるが、そうした場所に、様々なものを移設すれば、少しは助かると思う。大磯町は観光に力を入れているが、観光バスを入れることなど到底考えられない。今の場所を何とか工夫する形で考えてほしい。現状のままであれば、なんとか送迎がスムーズに行われている。それが狭くなったらそれはお手上げ状態となる。一般の方が乗降できるスペースを増やさないのであれば、良い計画とは言えない。

● 町では、一般車の停車台数が減ることが、残された課題としてあると認識しているため、検討していきたいと考えている。

○ 4億4千万円のうちJRはどの程度負担するのか。JRの乗降客のためにやっているようなものではないか。JRは負担しないのか。

● 今後、JRと協議させていただきたいと考えている。

○ 町民に直結したテーマである。説明会の開催はありがたいが、すぐに行政案の作成といった流れではなく、今日の説明会の状態を見てから進めて欲しい。私の感覚としては、観光協会などが旧駐輪場跡地に移るものと考えていた。具体的に動き出したとの話ではあったが、なぜその状態で計画するのか。まずそれは基本ではないかと思う。補助金の関係などで期限があるのではないかと推測しているが、それについてお話を聞きたい。

次に、安全安心・にぎわい創出計画策定委員会のメンバーに住民団体とありますが、住民団体とは何か。

また、安全安心とは言うが、事故が最近少なくなり、収まってきたといった印象を受けたが、事故が起きている状況を分析した上で、対策しているといった経緯が感じられない。Uターン禁止やスピードを制限する、タクシーを1列にするなどの対応で十分と思う。駅前の雰囲気は非常に良い。

まずは、観光協会の裏の用地がはっきりしない状態でこれを進めなければならない理由を聞きたい。

● これまでの検討では、観光協会と交番、飲食店、駐輪場跡地について、民有地の権利者から、その土地を含めて検討する了解をいただけていなかったため、現状の駅前広場の範囲内で検討してきたが、一般車の停車場所が少なくなるといったなどの町民意見をいただいた中で、今年度に入り、民有地の権利者から、検討区域に含めてもよいとの承諾をいただいた。今回の説明会は、皆様のご意見を参考に、区域を拡げた整備計画図（案）として修正するため、開催しているものである。

交通事故については、7年間で5件の人身事故がある。そのうち3件は横断歩道上で起こっていることを把握している。

○ なぜ、用地を諦めて計画を進めていたのか聞きたい。今回少し軌道に乗ったことは別として、急ぐ理由が何かあるのか。補助金が理由か。

● 当然、国の補助金を受けながら事業を進めていく予定ではあるが、それを理由に進めなければならないといったことは無く、縛られているとも考えていない。

○ 駅前広場西側の飲食店の駐車場に影響があるかは、後日検討することだが、影響の有無はわかるはずである。3台中2台は駐車できる、1台のみになるといったことは答えられるはず。JRからの補助金の有無についても、無いのであれば無いと答えるべきである。黙っていることは無い。おか

しい。今から交渉する話ではない。ずるいと考える。

私は4年前に隣から越してきた。鎌倉や茅ヶ崎、平塚などを見てきたが、大磯にはこんなに良い場所は残っていると驚いた。駅前の景観・駅舎、訪ねてくる友人や孫までも駅舎を見るだけでホッとす。駅前に箱ビルが沢山出来ると思うだけでぞっとする。

バスの問題は大きいと思う。駐輪場の跡地にバスの発着場を作れば、この問題は全て解決する。町民が一番大事な送り迎えや生活必需品、最も必要な活動が半分に減ることになる。交通島の脇に4台分のタクシープールを設けているが、その場所にはいつも一般車が4~5台停車している。皆で協力してきちんとやっている。それを小さくして、タクシーのために提供するのはおかしい。私は、車でよく駅前広場に行くが、不便を感じたことは一度も無い。

アメリカに、美しく、信号が無い町がある。信号が無いため皆が速度を落としている。タクシーの列があって、歩行者が見えず危険とのことだが、だからこそ速度を落として安全に運転している。直す必要は全く無い。直すのであれば、車道などの傷みを直す。また、歩道を作るというのは素晴らしいこと。100万・200万円あればできる。何を目的に計画が作られたかが疑問である。金を使うために計画が作られたのではないかというのが私の意見である。

- 拍手喝采されている方もおられ、そうしたお気持ちの方がいることは承知したが、本日は、様々な意見をお持ちの方が、それぞれのご意見を出す場であるため、少し冷静になっていただきたい。

大磯駅前広場は、車以外でも、多くの方が利用されており、徒歩での利用が最も多い。そうした中で、一般車に重きを置いて、車を利用できない人も使う公共交通のバスやタクシーは別の場所に持って行ってはどうかといった意見もあったが、駅前から遠くに持っていくわけにはいかない。町が、安心・安全なまちづくりに取り組んでいることも、大磯町にお住まいになった理由の一つと私は信じている。

- 私は、4月から6月まで、朝と夕方に駅前広場に立っていた。課題は2列に並ぶ駅舎前のタクシーと、駅舎向かいの商店前の駐車車両である。この対策をする必要がある。駐停車禁止の標識が駅前広場に5つあるが、誰も守っていない。違反の札を張ればよい。警察は見ても見ぬふりをしている。

私の考えとしては、駅前の湘南発祥の碑は、コンビニに西側へ移動すればよい。また、交通島は取り払い、有料駐車場を作る。観光案内所と交番は、湘南発祥の碑とともに、コンビニ西側に移動して、その跡地と旧駐輪場跡地にタクシー乗り場を持つてくる。このようにすれば、数千万でできる。雨の日が一番危ない。駅舎向かいの商店と、交通島周りは駐停車禁止。車で走っていると急に飛び出してくる。このようにすれば、すばらしい景観の駅前になると思う。

- 沢山のご意見いただいた。参考とさせていただく点が多くあると思うため、後日、改めて教えていただきたい。

- 徒歩で駅前広場を利用するが、私は駅・駅前広場の雰囲気が好きである。交通島を縮小する話があったが、決してその必要は無く、交通島があってこそ大磯の駅前広場だと考えている。安全・安心を旗印に、駅舎前の横断歩道を15mから7mに縮小することが、この整備計画図(案)の肝だと思うが、それにより本当に安全・安心になるのか。横断歩道の幅員が7mであれば、片側車道の幅員は3.5mになる。そこを、一般車、バス、自転車が通行する。さらに渋滞も起こる。私は、今のままで、出来ることをやれば良いと考えている。例えば、交通島の周りを一方通行にする。それは現状を変えずに直ぐに出来ることであって実行したらよい。また、整備費は4億4千万とのことだが、先日の9月議

会を傍聴したところ、漁港のにぎわい交流施設の予算はどんどん膨らんでいるとのことであった。こうした事業は、当初の計画から膨らんでしまうものである。駅前広場の計画も膨らむと思う。これらの事業は、我々の税金を使って行われるものである。そうしたことを踏まえて、金をそれほどかけずに出来ることを、工夫して行うことが重要である。

- 整備計画図（案）を平成 29 年に作成したとのことであったが、こうした説明会がもう少し早い段階で開かれても良かったのではないかと感じる。説明会が開催されないことで、町民の間に疑心暗鬼を生むことに成り兼ねない。

私には幼稚園に通う娘と小学生の息子がおり、母親として安心・安全について、高い関心を持っている。周囲のママ友の中に駅前広場整備の計画を知る方はいない。周知が足りていないと思う。今回の説明会の案内についても、広報への小さな掲載に止まっていた。またWEBサイトでの掲載にしても、トップページから掲載ページまでがわかりにくい。トップページでの周知に注力しても良いのではと思う。

また、今日の説明会であった出来事を、議事録としてWEBサイトで公開するとよいと思うが、町にそうした考えはあるか。

もう一点、旧駐輪場跡地なども駅前広場に含めて検討していくとのことだが、それは大きな変更だと思う。本日の説明会の後、整備計画図の行政案が作成され、再度、町民への意見を聞くとのことだが、その際には説明会が行われるべきと考えるが、町の考えを聞きたい。説明会で意見が出まただけであれば、説明会開催がポーズになってしまう。そうした説明会の開催がポーズでは無いことを、しっかりと示していただきたい。町には、町民意見を取り入れた、持続可能なまちづくりといったことに、しっかりと取り組んで欲しい。

また、一般車の制限により、近隣のクリエイトに、暫時、停車する車が増えるのではないかと懸念している。クリエイトへの右折入庫は禁止であるにも係わらず、右折入庫する車が見受けられる。出入りする車がある中で、右折車両が待機し、更に鳴立亭の手前でも停車する車が、少なからず見られる。また、ステパノ学園沿いの横断歩道でも、危険な思いをしたことがある。現状でも、クリエイトの駐車場が満車となった際には、車の滞留による危険性がある中で、駅前広場で一般の送迎車が制限されることでクリエイト駐車場の一時的な利用が増え、更に危険性が増す懸念がある。

- まず、説明会を早い段階で行わなかった点については、町としても申し訳ないと感じている。この計画を作った後に、町民団体の方が、駅前広場整備の計画の認知度に関するアンケートを実施したが、計画を知らない方が大半であった。町としても、これまで説明をしなかったことについては、反省すべきと感じ、今回、説明会を開催させていただいた。

ホームページが見にくいといったご意見については、今後改善していきたいと考えている。

次に、今回の会議録はホームページへの掲載を考えている。

次に、今後、町民への意見募集の機会は必ず設ける。本日も意見を伺い、参考にさせていただきながら、まずは、たたき台となる整備計画図を作成し、それに対して皆様に意見募集をする機会を設けていきたい。

次に、一般車を制限するとの意見があったが、今回の整備計画（案）は一般車を制限するものではない。現状の駅前広場では停車しても良い場所が明示されておらず、駅前広場利用者が停車しても大丈夫であろうと考えた場所に停車されている。普段、大磯駅前広場を利用しない方が混乱するといった懸念もあり、整備計画図（案）では、駐車は禁止だが、停車できる場所を明示しているものである。

しかしながら、道路交通法上、明示した場所以外に停車してはいけないわけでは無い。

今回の駅前広場の整備計画図（案）は、町民の方も参画する委員会より助言等いただきながら、平成30年3月に一旦取りまとめたが、検討当初から、限られた駅前スペースであることを踏まえ、優先順位は付けなければならず、中でも最も弱者である歩行者が優先すべきで、一般車やバス、タクシーは、少しずつ我慢いただき、それにより生まれるスペースを歩行者のために使うといった考えで進めてきた経緯がある。

ただ、今回の説明会では、一般車に対する懸念をいただいた。安全に乗降できる場所を明示したとしても、現状、停車している場所と比較すれば、台数は減ることになる。今後、区域を拡げて計画を修正する中で、出来る限り一般車が停車できる台数が減らないような検討をしていきたい。しかしながら、一番の交通弱者は歩行者であるということをご理解いただきたい。

- 安全・安心について伺いたい。アンケートの中でも滞留する車が多いといった意見があるが、まず、事故の原因は何かを聞きたい。また、その原因を踏まえて、どのような考えで、今回の整備計画図（案）となったのかを聞きたい。

整備計画の中で良いと思ったのは、交通島の南側を一方通行にすることで、これは費用をかけることなく実行できる。例えば、費用がかからないものを試行し、対策を整理していくというのが良いと思う。私は、このままの駅前が素晴らしいと思っている。

- 駅前広場では、人身事故が横断歩道で3件起きている。町としては、実際に起きてしまった事故のみならず、今後、事故が起きにくい構造にする必要があると考えている。そのためにUターン車両をどう減らしていくか、また、一般車の駐車場所を明示して安心に乗降できるよう配慮が必要と考えている。これまで説明してこなかった経緯はあるが、整理をして、整備計画図（案）を修正し、改めてご意見をいただく段階で説明していきたい。
- 行政には、可能な限り、事故が発生する前に、危険性の段階で減らすことが求められている。本日、整備計画図（案）をお示ししたが、限られた駅前広場のスペースの中で課題を解消するためには、皆さんが少しずつ、譲り合う気持ちを持っていただきたい。自分たちの生活を大事にしていることは理解するが、弱い者とは、歩行者・自転車、こどもの通学などではないか。それを盾にとって、整備が必要と言っているわけでは無い。町は、駅前の構造をどのように変えれば、事故を少なくすることができるのかを考えている。お金を使うなという意見もあるが、行政として、予防的に、最低限やらなければならないことは実行していかなければならない。そのお金の使い道については、しっかりと検証していきたいと考えている。
- 滞留する車両が増加することで、事故が増えるのでは無いか。事故の要因になると考えてる。
- 説明でいう滞留車両、駅前広場で乗降する車両や、暫く停車している車両のことである。そうした車両を滞留させないことは難しいと考えている。
- 停車可能な場所が減り、停車できずに駅前広場内を周回する車両が増え、事故につながるのでは無いかということである。
- 一般車の停車が少なくなるといったご意見をこれまでも多数いただいているが、そうした意見にも耳を傾け、今後、整備計画（案）の修正をしていきたいと考えている。
- 車が停車している時間は朝と夜とで異なる。朝は降ろすだけであるため1分もかからない。夜は電車の都合で待ち時間が長くなることもある。朝と夜とで人や車の動きが異なる。朝の6時～8時は、

通勤のため、同じ時間に集中することになるため大変混雑するが、帰りは分散するため、車が停車していることを気にする必要は全くないと思う。今のままで十分である。整備計画図（案）では、西側の交通島の緑を削るとしているが、地球温暖化の問題もあり、削る必要は無い。電柱を埋設し、歩道の有効幅員を少しでも広げれば、今のままで十分対応できると思う。西側の飲食店の前は、学校の送迎バスが停車しているが、これも考えなければいけないと思う。学校に対して町が配慮しているとは思えない。月に千人来るかわからない観光客に対して何かをするのではなく、毎日利用し、税金を納める町民のために、何をすべきかを考えるべきである。この町では送迎でなければ通勤できない人が多くいる。バスについては、大型ではなく中型にすればスペースも取らずスムーズにいくのではないか。基本的に電柱を埋設して少しでも歩道の有効幅員を広げる、観光協会に移動してもらうなど、そうしたことを考えてから検討する話である。JRは一銭も金を出さない。駅を作るのにも、町がいくら金を出すのか。そうしたことを踏まえて欲しい。

また、町長に言いたい。町長の時代に何かやらなければいけないといった考え方はやめた方がいい。現状を維持するといったことが大事である。今、東海道線の熱海までの間で、立派な駅は大磯と根府川だけである。それを保存することが町長の仕事だと思う。

- 何もなくてよいといったご意見だが、町としては改善した方が良い点があると考えています…
- もっと住民を呼んでくるにはどうしたらよいか。それを考えるべきだ。この計画では考えているうちに入らない。
- バスの小型化や学校の送迎バスについても、計画を修正していく中で検討していきたい。歩行者の円滑な通行の確保、安全性の確保のため、改善は必要である。駐輪場を駅前広場の東側に建設したため、駅前広場を通行する自転車の台数が増加していることも承知している。そうした点を改善するため、限られた駅前広場のスペースではあるが、皆さんの協力をいただきながら、大磯らしい駅前広場を作っていきたいと考えている。
- 説明会の趣旨からは外れるかもしれないが、先日、町議会議員選挙があり。選挙前は駅前広場整備に賛成派の議員が多かったが、選挙後は反対派が多くなったと聞いた。素朴な疑問として、議会と町の関係について聞きたい。議会は予算を通すところであるため、予算が通らなければ、駅前広場の整備計画が頓挫したと考えていたにもかかわらず、本日説明会があるとのことで、疑問に思い出席した。また、予算を執行する際にどのように行うのか。入札か随意契約かを参考に聞きたい。
- 町としては、議会にお話しし予算を認めていただいたうえで、委託業務を発注し、今後、整備計画図（案）の修正を行っていきたいと考えている。
- 着手までのこのスケジュールの中で、議会がどのように関係してくるのかといったことを聞きたい。
- 町で行政案を作る段階で議会の方に説明し、また、今回の説明会についても事前に説明したうえで実施している。
- 答えになっていない。
- 議会と町の関係としては、法令に、議会の承認を受けなければならない事項が定められている。その中で大きなものとして予算がある。今回示したスケジュールの中では、整備計画図を修正するための予算として認めていただいている。これは、平成31年度の予算として、町議選の前の段階で承諾をいただいたものである。今後、実施設計・工事実施でも予算が必要となるため、その時点での町議会に承諾をいただくことになる。

しかしながら、予算を認めていただく時だけでは、町議会議員や町民にしっかりと説明することは

できないため、定例会とは別に開かれる委員会や、こうした説明会といった場で議会・町民にも説明しながら、ご理解いただいているといった状況である。

- 業者の選定はどうか。
- 業者の選定は、基本的には、一般競争入札である。業務の規模・内容に応じて、参加可能な業者に条件は付くが、誰でも参加できる。

- こうした公共事業の計画は、まず、建設コンサルタントがたたき台を作成する。建設コンサルタントは、より広い駅前広場計画の経験はあるが、大磯駅のように狭く、ゆったりとした、人のための駅前広場については経験が無いと思われる。町に住む私たち町民の目線が一番の設計図だと思う。一般的には、建設コンサルタントがいて、住民の意見を”良い感じ”でまとめていると思われる。”良い感じ”“というのは、町として良いのか、住民にとって良いかはあると思うが。この説明会の中で、参加した町民が拍手をしている。それは賛成・反対の意思表示である。写真を撮っている方もいる。この計画をこの通り進めても良いか、もしくは足りない部分があるかなど、町から挙手を求める質問をしてはどうか。そして、その結果を町のホームページに掲載していただきたい。このままでは私たちの意見は何も通らない。せめて、挙手による賛成・反対の意思表示を写真に残して、ホームページに掲載していただきたい。大磯の町は本当に良いと思う。しがらみ等の有無はわからないが、せめて、そうしたことをやっていただきたい。
- 今回の意見をいただいたうえで、今後、整備計画図（行政案）を作成していく。そのため、現時点で、町の最終的な案といったものはお示しできていない。次回、整備計画図（行政案）を作成した段階で、改めて、皆さんのご意見を伺う。

説明会に出席されている方それぞれが、色々な意見を持っているとは思うが、本日は、特に反対の意見を町に伝えるため、来ている方が多いと思う。…
- 町・町というが、我々町民の話だ。町が主体ではない。町民が主体なんだ。
- 直接迷惑がかかる人間には何も聞いていない。駅前広場の近くで商売をしているが、一度も話を聞きに来たことがない。おかしいんじゃないですか。
- 駅前広場は、多くの方が利用されている。駅前で商売されている方も利用するが、通勤通学で利用される方もいる。本日は、多くの方からご意見をいただきたいと考えている。これまで、アンケートも実施しており、件数は少ないとの意見はあるが、統計上、信頼できる結果となる回答数は得ている。ここにいる方のご意見も非常に大切とは思いますが、ここにいない方のご意見も大事だと考えている。ご理解をいただきたい。
- なぜ挙手をさせないのか。
- ここにいる方だけで決めるものではないと考えている。町として、全体の意見を見ながら、今後、整備計画図（案）の修正をしていく。この場においては、反対の方が多くは承知している。

- 駅前広場整備の計画があることは、町議会議員から半年～一年前に聞いて初めて知った。大変驚いた。駅前広場は、足が不自由な家族の車での送迎や幼稚園の徒歩での送迎で利用している。しかし、この整備計画図（案）が、救い主のように思えなかった。中でも、横断歩道の延長を半分以下にしているが、ここには、自転車、車、バスが往復する。利用者は、西側のロータリーをゆっくりと走るため、事故は少ないと思う。今まで、事故は起きたことは無い。譲り合って使っている。しかし、この整備計画図（案）では、駅舎前に交通が集中することが容易にわかる。朝夕のラッシュ時には、止ま

ってしまって動かなくなる。自転車が転倒して学生が怪我をするといったことも想像できる。今まで、駅前歩道に人が溢れて通れなくなったことは一度も無い。観光客の方が来られても、多くて通れなかったといったことは一度も経験したことが無い。地元の方は、駅舎前の横断歩道をほとんど通らない。信号を付けることは、景観の問題もあるため主張したくは無いが、検討したことはあるか。安全・安心とは言いが、最近引きなおされたが、白線も消えかかったままであった。道路面もデコボコである。安全・安心というのであれば、そうしたことに予算を付けるべきではないか。町の地道な取り組みが感じられない。

町議会議員は、町民の代表として議会に入っている。町の行政のチェック機関としても成り立つと思う。予算を通すことは、大前提としてあるが、町議会議員と十分審議をしていただきたい。是非、我々の代表である町議会議員を大事にしていきたい。

- 譲り合いながら交通広場を使っており、今のままでも安全といったご意見をいただきましたが、アンケート調査でいただいた意見には、もの凄いスピードで駅前広場を通過されて怖かったといったものもあった。ルールを守って丁寧に運転していると思われる方もいるが、そうではない方もいる。交通事故は起きていないといった意見は聞くが、実際に起きている。安全・安心を確保していかなければならないと考えている。

- 60年大磯に住み、40年大磯駅を使用しているが、危ないと思ったことは一度も無い。そんな中で、何故、安全・安心を求めるのかがわからない。

東側の旧駐輪場跡地などを加えることで、整備計画は大幅に見直すことになると思う。その場合には、その修正計画をもって、改めて町議会に図るべきだと思う。当然、4億4千万円というのは、前の町議会での計画であるため、今の町議会の議決を受けるべきだと思う。どのように考えているか。

- 旧駐輪場跡地などを加えるため、整備計画図（案）は大きく修正することになると認識している。予算に関連してコスト削減・縮減といった検討も行い、交通事業者や県警などと協議したうえで、新たな整備計画図（案）を作成し、町議会を含めみなさんにお示ししたいと考えている。

- もう少し穏やかな話ができるかと思っていましたが、随分とにぎやかな説明会となった。

現在の整備計画図（案）では、様々な支障があるのだろうと思う。ここにいる町民の声だけを聴くと、反対の方が随分多いと感じた。しかし、このままでよいのか、もう少しきれいにしてほしいといった声、サイレントマジョリティといったことも考えられる。是非、そうした声も聞いていただきたい。